

【石巻専修大学における復興共生プロジェクト推進のためのセンター的機能整備事業】の取組状況について

【取組の概要】

＜石巻圏域の産業復興プロジェクト＞

目的：被災地域の復旧・復興を図るためには、地域住民や地域事業者のニーズを積極的に聞き入れ、地域が抱える問題を客観的に分析していく必要がある。さらに、地域社会の多様な関係者とのパートナーシップ（連携体制）を構築しながら、実践的な行動を展開していく。

概要：①津波や浸水に強い自動車の開発の突破口、車載用津波防災グッズの開発を行う。②実態調査、関係機関等への提言、問題解決のための事業等を実施する。③石巻市民の「心の復興」の礎となる壮大な復元立体模型を製作し、完成させる。④被災地域の水産業及び水産加工業の支援のために、水産加工食品の試作・試験支援事業を実施する。

＜石巻専修大学の防災能力の強化＞

目的：石巻以北のリアス式海岸には小規模な集落が点在し道路は不通になりやすく、災害時にはこうした集落が1週間程度自立して生存できるように、災害発生直後に最も必要となる飲料や治療のための安全な水を確保することである。

概要：災害時に20戸60人程度の集落が1週間程度自立して生存できるように、自然エネルギーによる自家発電装置を備えた自立可搬式浄水ミニプラントの開発を行うものである。

＜復興に関連した情報の発信＞

目的：被災地の教育研究機関による復旧活動・地域貢献活動・復興支援活動を記録していくと共に、震災時及びそれ以後の状況等を記録し報告する。さらに、直面した様々な課題の分析と提言を発信し、復旧・復興に資する。

概要：地域の復旧・復興への思いを風化させないために、報告書の刊行やシンポジウム等によって社会に発信する。

【現在の活動概要】

＜石巻圏域の産業復興プロジェクト＞

- ・津波に遭遇した際に必要なグッズを石巻圏域の産学官グループにおいて選択する
- ・石巻圏域で活動の支援団体との協力体制を構築した
- ・三陸産業再生ネットワークを構築、地域経済再生に向けての方策を産学金連携で検討・実施する
- ・完成した復元立体模型を市民向けに学外展示した
- ・石巻地域の水産業・水産加工業の現状などを踏まえ、「被災地域の水産業及び水産加工業支援シンポジウム」を実施した

＜石巻専修大学の防災能力の強化＞

- ・自立可搬式浄水ミニプラントを開発し、気象条件に最適な風力・太陽光ハイブリッド浄水プラントの開発に資するデータの蓄積、学生に自然エネルギー活用法を学ぶ場を提供する

＜復興に関連した情報の発信＞

- ・震災報告書・第2版「復興に向けて（仮称）」の刊行に向けての準備する
- ・震災時に対応した本学の行動を基に、各団体と情報交換の場を提供した



↑産学官の取組み



↑自立可搬式浄水ミニプラント



↑産学金の取組み



↑復元立体模型



↑水産業及び水産加工業支援

継続



発展

【平成25年度予定】

＜石巻圏域の産業復興プロジェクト＞

- ・石巻市民、自治体、経済団体、業界団体、金融機関、まちづくり組織、教育機関との連携スキームを構築する
- ・連携窓口を中心として、被災地域からニーズを積極的に聞き入れ、復興支援の活動を展開する
- ・設備・技術の提供と人材育成の両面から、復興途上にある被災企業（水産業・水産加工業）の支援を推進する
- ・復元立体模型製作教室を開催し、設計工程に係る知識を習得する場を提供する

＜石巻専修大学の防災能力の強化＞

- ・災害時に求められる技術や自然エネルギー活用法を学ぶ場を学内外で提供し、技術者の高度化教育や人材育成を行い、復興に寄与する

＜復興に関連した情報の発信＞

- ・東日本大震災 石巻専修大学報告書をめぐってのシンポジウム等を開催する
- ・震災時に対応した本学の行動を基に、各団体と情報交換の場を継続的に提供する